

6年生の挑戦 哲学対話で「わたしたちのルール」をつくろう!

【6年生の総合の学習 なぜ自分たちでルールをつくるのか?】

4月から1年間かけて6年生全体で取り組んでいる【ルールメイキング】

「わたしたちの学校安心ルール」の作成は、中間地点にさしかかりました。

この日は、以前から計画していた公開の研究授業です(速報ブログを再編集してお送りします)。

11月24日5時間目。

児童は、緊張と高揚に包まれ、車座になって待機しています。

本時の対話に先立って、まずは、チームごとの調査報告です。

調査先は、弁護士、検事、議員、市役所、他校・自校の先生などです。

「なぜ自分たちでルールをつくるのが大事なのか」各々の調査先の見解が披露されました。

司会と進行は、立候補の児童2名が務めます。

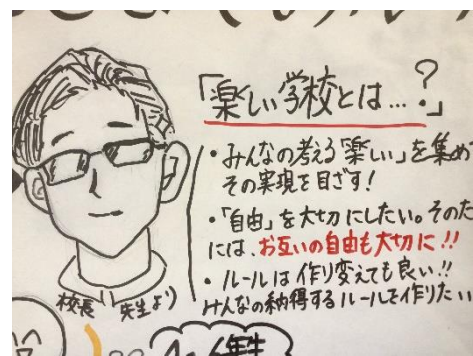
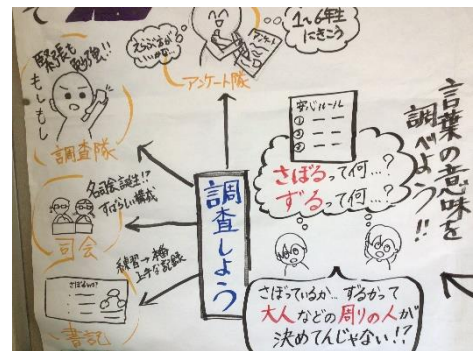
今日は、先生は「書記」です。要点の板書がなめらかになされます。

今日は、枚方市の教育トップ、尾川教育長もお越しになり、市教委研修課、他校から多くのギャラリーがお見えです。そして指導講師としてNPO法人【カタリバ】さんから古野先生をお招きしています。

児童は、本校のスローガンである「毎日楽しい学校」を実現するための学校のルールづくりというミッションを持っています。そのために、自分たちで「楽しい学校」の定義づけを行い「わたしたちの学校安心ルール(案)」をもとに「哲学対話」の手法を使って探求学習を行ってきました。

小学校では極めて珍しい、「自分たちで学校のルールをつくる」学習。おそらく全国初になるであろうこの試みに、当初児童は興奮していました。

しかし、時が経つにつれて、児童は、「今の学校のルール」に多少の不満はあるものの、全体的には納得感を感じており、当初の熱がやや下がってきているようです。



(今、中学高校で取り組んでいる「ルールメイキング」は、ブラック校則の改正が主。だから大きな熱量があるわけです)

そこで本時では【ルールメイキング】の原点に立ち返り、「自分たちでルールをつくることの大切さ」について、対話を通して児童と先生も含めた全員で共通の納得解を見出し、この後の原動力につなげていくことを狙っています。

取材の報告を終えて、司会がこれら結果の「共通点」についてまとめます。。すると、、、えっっ、ホント!?
今それまとめたの!?! お見事! 司会、グッジョブです、素晴らしい!

そのまとめをもとに、本時「哲学対話」の問いが出されます。次々に児童の手が上がります。今日の問いリストが出ました。「今日の問い」を決めます。(メタルールで、問いの決定は多数決と決めています)

「今日の問い」に対する対話が始まりました。この教室では、真剣に考えたのであれば、何を言っても良いという心理的(知的)安全性が、児童全員により担保されています。発言者は、毛糸のボールを持って発言します。(なぜか、、、これを持っているとすごく発言しやすいようです)ボールを持っている人だけが、発言するルールです。発言者が、次の発言者を指名します。手を挙げた人にあてる時がほとんどですが、そうでない場合もあります。「わかりません」も立派な発言とみなされています。

さて、対話の深まりを受けて、先生が関連した問いを出しました。ここが、本時の見せ場かもしれません。児童がご近所さんとの対話を始めました。

それを受けて、全員での対話が再開されます。

この日、普段はなかなか発言しない児童が活躍していました。この日に賭けていて、全力で臨もうと相当気合を入れて準備していたものと思います。驚きと感動の涙です。

子どもたちに任せて、ここまで話が深まっていくんか!?! ギャラリーが驚愕するなか、児童を信じて任せた「哲学対話」は、今日のクライマックスに向かいます。さあ、本時「哲学対話」の結末はどうなったのでしょうか???

詳しくは、お子様にお尋ねください。またブログや学校だよりでご報告します。

